

日本公防

2軸タイヤ処理機を発売

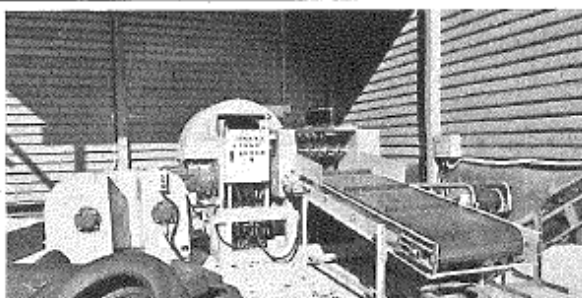
独自技術でワイヤー飛び出さず

日本公防（本社・北海道北斗市、葛西祐康社長、☎0138・49・7153）はこのたび、廃タイヤ専用2軸破碎処理機「SHINSEI」の販売を開始した。この装置は廃タイヤの処理業者である新生ゴム（北海道北広島市）が自ら発明したもので、事業者ならではのノウハウが多く用いられている。葛西社長はこの装置の開発段階から協力してきた

経緯があり、発明事業者とライセンス契約を締結し、現在では技術者を所属させ製造・販売およびメンテナンスまでを一貫して同社で行える体制を整えた。廃タイヤの市場に変化が起こった今の時代に必要技術だと考え、展開に力を入れることにした。

特殊凹形刃で切断処理をするため、切り口から細ワイヤーが飛び出ない。処理能力は月間100〜300トで、ランニングコストが安く済む特徴がある。PCタイヤだけでなく投入口に入るサイズまでカットしたTBタイヤも処理できる。

主に既存の処理業者による装置の入れ替えではなく、高品質タイヤチップを別枠で製造できるサブラインとしての活用に販路を見出している。新たな販路に振り分けられる品質のタイヤチップを作る



2軸破碎処理機「SHINSEI」

いる事業者であり、この機械を実際に導入・稼働させているため、信頼できる製品として販売を行う。

葛西社長は「廃タイヤ業界は中長期的に安心できる要素が少ないため、排出事業者との調整や需要家とのマーケティング

ことで、廃タイヤ利用の総量を増やしていく方針を提案する。切除したピードワイヤーは鉄くずとしてスクラップ業者などに売却できるため、合理的に製品の多様化を進められるとした。

同社は北海道で年間4000トの廃タイヤやゴム加工品、ゴム履帯などの処理を行っている。